

都市経済常任委員会の行政視察報告

平成 27 年 11 月 24 日
 都市経済常任委員会
 委員長 佐藤 尚武



下記の通り視察研修を実施しましたので報告します。

○日程 平成 27 年 10 月 21 日～10 月 23 日

○視察メンバー 佐藤尚武 古賀敏彦 成富一典 田中登志雄 山田忠 松村京子

○視察先 日高市（埼玉県） 巾着田の観光^{振興}整備について
 鶴岡市（山形県） コンパクトシティの計画と実践について

○視察研修内容

① 日高市：巾着田の観光^{振興}整備について

○人口 57,165 人（平成 27 年 3 月末現在） 小郡市より若干少ない

○面積 47.48 k m² 小郡市より若干大きい

- 市の概要
- ・埼玉県の南西部に位置し、首都 40 k m 圏内にある。
 - ・東西約 11.1 k m、南北約 6 k m でほぼ矩形をなし、東は川越市に接している。
 - ・東側に首都圏中央道路自動車道と国道 407 号、西側に国道 299 号が走り、県道川越日高線がこれらを結んでいる。
 - ・J R 八高線と J R 川越線、西武池袋線が乗り入れ、市の発展に大きな役割を果たしている。
 - ・高句麗滅亡から約 50 年後の 716 年、東国 7 ヶ国に点在していた亡国の民（高麗人）はこの土地に集まり、新しい郡、高麗郡と名付けた。高麗川もその名残であり、以来約 1,300 年に亘って高麗の郷として高句麗の歴史と文化を今に伝えている。2016 年（来年）高麗郡建郡 1,300 年記念事業が催される。
 - ・尚、平成 3 年 10 月 1 日市制を施行。日高市となる。

【巾着田の^{整備}観光整備について】

- 市内を流れる高麗川の蛇行により長い年月をかけてつくられ、その形が巾着の形に似ていることから巾着田と呼ばれるようになる。

直径約 500m。面積約 22ha（市と個人 7:3 の割合で所有）

- ダム湖の用地として購入していたが、ダムの話が無くなり、河川の増水等により彼岸花（曼珠沙華）の球根が根付き、咲くようになり、整備するようになった。（曼珠沙華公園として）
- 平成元年 ふるさと創生事業の一環として「高麗の郷づくり事業」を決定。
- 平成 3 年 巾着田整備計画を策定した。
- 平成 7 年 3 月 巾着田管理協議会設立。
（市、地元自治体 6 区、漁業組合、耕作者組合、観光協会、巾着田サポータークラブ）
- 平成 8 年 3 月 巾着田整備事業完了。

◎ 主な整備

- ・ 平成 3 年 水車小屋建築（事業費 約 11,900 千円） 美しいむらづくり事業
 - ・ 平成 4 年～6 年 進入路整備（事業費 約 179,900 千円）
 - ・ 平成 6 年 管理棟建築（事業費 約 56,650 千円）
 - ・ 平成 6 年～7 年 あいあい橋（木製橋）建造（事業費 約 3 億円）
- } 彩の国づくり
推進特別事業
- ※ 平成 21 年～22 年 埼玉県水辺再生事業を活用して
- ・ 鹿台堰補修 ・案内看板の作成 ・水車小屋補修 ・ビオトープ整備
 - ・ ドレミファ橋整備 等実施（約 32,000 千円）

○ その結果として

春には菜の花・桜

夏にはハス・ガクアジサイ

秋には曼珠沙華・コスモス

冬には曼珠沙華の葉・梅

が一年中咲き誇り

これに併せて

いろんな催しが行われています。

特に秋の約 500 万本の曼珠沙華の開花の時期は（概算）

平成 23 年 年間 590 千人の内 18 日間 153 千人 入場料 28,000 千円

平成 24 年 年間 601 千人の内 15 日間 140 千人 入場料 25,700 千円

平成 25 年 年間 550 千人の内 12 日間 126 千人 入場料 33,500 千円

平成 26 年 年間 543 千人の内 14 日間 136 千人 入場料 37,330 千円

- ◎ 市の観光誘致又憩いの広場として行政と市民が一体となって推進していることに感心しました。

- ◎ トップの英断で、巾着田近くの民家を 1.5 億円で購入。一体となって観光開発を推進している。
- ◎ 県の事業を活用し、いろんな方面からの協力を得て、協議会を立ち上げて観光誘致をしている。(市の活性化、まちづくりの為) と思います。
- ※ 小郡市としても、七夕神社あり、宝満川あり、城山(花立山)あり、その他あり、観光資源は十分あると思います。もっと積極的に市の活性化の為、トップを筆頭に推進する必要があると思います。

②鶴岡市：コンパクトシティの計画と実践について

- 人口 132,313 人 (平成 27 年 3 月末現在) 小郡市の約 2.2 倍
 - 面積 1311.53 k m² (73%が森林) 小郡市の約 28.8 倍
 - 市の概要
 - ・日本海を望む庄内平野の中央に位置し、江戸期より庄内藩 14 万石として栄えた城下町
 - ・平成 17 年に 1 市 5 町が合併。新鶴岡市となる。
 - ・慶應義塾大学生端生命科学研究所や山形大学農学部、鶴岡工業高等専門学校があり、学術研究都市でもある。
 - ・市内加茂水族館はクラゲで有名となり、年間 100 万人の入場者数を誇る。平成 26 年 6 月改築。事業費 30 億円。
- (内、住民公募債①初年度 3 億円②6 億円)

【コンパクトシティの計画と実践について】

- クルマ社会、農地の宅地化、核家族化の進展等によって、市街地のスプロール化が進み、中心部の人口の減少及び高齢化の加速化が起こり、市中心部の商業は衰退傾向をたどった。
- 小売業の販売高は市全体では微増傾向を続けていたが、1991 年以降減少となり、中心部は 1985 年～97 年にかけて 10%以上低下。

このような状況に対処するため、

- 住民参画のもと、都市計画マスタープランの策定プロセスを通じてコンパクトシティのコンセプトを確立した。(2001年)
- 目標として「人が集まるまち」「住み続けられるまち」「ダイナミックな商店街」(中期目標として「都市機能の中心市街地集中とコンパクトな市街地の形成」等)
- 取り組みの体制は市が中心となるも、市民全体で議論、意思決定。専門家や学生がサポート。個々の事業は市が、国・県・慶応大学・市民・事業者の協力を得ながら実施。
- 具体策として
 - ① 都市計画の見直し。(線引きの導入) 2004年に線引き導入。
 - ② 市立荘内病院、老朽化のため市外への移転も考えられていたが、200m離れただけの中心市街地に移転。
 - ③ 鶴岡タウンキャンパス等の教育・研究施設の中心市街地内での整備。
 - ④ 鶴岡城址を中心とする景観を守るために、建築物の高さ制限を導入。

そして、それを実現するために、

- ・都市機能の中心市街地集中とコンパクト市街地の形成。
 - ・既存ストックの見直し、再生による魅力拠点の整備。
 - ・魅力ある商店街。
- 等、一体的に推進するリーディングプランを掲げている。

- 古いものを知り(理解し)新しいものを知る。温故知新ではありませんが、江戸時代の城下町の風情(景観)を残し、新しいもの(鶴岡タウンキャンパス等)を造っていった典型ではないでしょうか。
- また、思い切って(決断し)線引きを導入。中心市街地を活性化、また農村部(市外地)には補助を行っている。
- ◎ 全体的には人口減少、高齢化が進んでいますが、生き残っていく(勝っていく)方策の一つであると感じました。
ここも、市民を中心とした(市民参画ワークショップ 30数回に及ぶ)積極性が感じられました。

(まとめ)

- ◎ 小郡市は好立地であり、もっと発展していい市であると思います。
現在はどうも停滞（ぬるま湯に入っている）気味であると思います。
発展のための施策を期待したい。
- ◎ それぞれ、資料を添付しております。（詳しい内容が解ります）
- ◎ 3日間、大変勉強させていただきました。ありがとうございました。私達（議員）も市
発展の為、ここで勉強してきたことを市政に反映できるよう全力を尽くしてまいります。

以上